

議長 次に、受付番号第6号、田代実君の一般質問を許します。登壇ください。

2番 田代 ただいま、議長のお許しをいただきましたので一般質問をさせていただきます。受付番号第6号、質問議員、第2番 田代実。件名、松田小木造校舎の建設費、全国の方に呼びかけを！

要旨。松田町始まって以来の大規模プロジェクト、松田小学校の木造校舎建設事業が始まりましたが、その財源の負担は厳しい状況にあります。議会では、町債を少しでも減とすため、インターネットやマスコミを介し建設資金を調達するクラウドファンディング型ふるさと納税の推進を条件の一つに賛成しました。先般、この事業に町民の方から匿名で1,000万円の寄附があったそうです。町民を初め松田出身者や…失礼、交流事業により強い愛着を持たれている方など、隠れ松田ファンが全国に多いと推察します。そこで、資金調達に関する今後の展開や、寄附をされた方への対応について、町長のお考えをお伺いいたします。

以上です。よろしくお願いいたします。

町長 それでは、田代議員の御質問にお答えをさせていただきます。

まず、平成23年から始まりました第5次総合計画で推進されてきました、町始まって以来の大規模プロジェクトであります未来の子供たちにつなぐために必要な投資的事業であります教育環境整備事業がスタートいたしました。今後の財政推計を鑑みたとき、歳入減並びに歳出増加が見込まれ、町政運営が今まで以上に創意工夫が必要となることが予測され、社会保障関係費の増加、最重要施策の松田小学校整備事業や新松田駅周辺整備事業など、新たな建設事業等の財源確保が必要になるということに見込まれている状況でもございます。人口が減少傾向にあっても、歳出を減らすことは容易ではございませんが、今後、行政サービスを補うための自主財源の確保するための対策として、町有財産である町有地の活用促進や、市街化区域等への住宅地等の誘導、町税外収入をふやす仕組みを実施し、財源確保を積極的に図っていかねばなりません。その町税外収入の取り組みの一つとして期待されるクラウドファンディングであるふるさと投資納税等々はですね、2011年に地方自治法が改正されたことをきっかけとなり、自治体の意向に沿った第三者の民間事業者等が自治体にかわり

投資を集めることが可能となったものでございます。

さて、田代議員の御質問の自治体クラウドファンディング、いわゆるガバメントクラウドファンディングについては、町税外収入確保において、ふるさと納税や命名権、広告宣伝事業などがございますが、このガバメントクラウドファンディングについては、町が主体となって不特定多数の人から目的を持って資金を集める行為、手法でございます。大衆、クラウドという表現になりますが、財政的支援、ファンディングを組み合わせた造語であり、ソーシャルファンディングとも呼ばれております。このクラウドファンディングの実施者となる町は、インターネットを利用して使い道をPRすることで寄附を募り、返礼品を送るふるさと納税型の寄附制度でございます。具体的な使い道を示すため、寄附者にとっては透明性の高い制度でございます。資金の提供者には、町のさまざまな魅力やイベント情報、寄附目的の事業の推進状況をお知らせするとともに、松田町のブランド商品やイベントへの招待なども提供できる仕組みを検討し、交流人口・関係人口の増加に取り組んでまいります。

そのような中、学校整備事業に先立ち、この制度を活用したPRを行い、推進していくための第一歩といたしまして、トライアル的に今月から4月にかけて約2カ月間、女性活躍推進事業に関するクラウドファンディングを開始する予定として準備を進めているところでもございます。今回の対象者を、全国に約29万人いると言われていた松田姓の方々を中心に届くよう、全国的に有名な企業と組んで発信していく予定であります。以前、御提案をいただき以来、民間事業者等とともに連携し、私や職員が外に足を運び営業活動を行い、現在このような状況まで進んできております。引き続き、シティープロモーションを積極的に実施してまいります。さらに、第2回全国松田サミットの開催を新年度に予定をしております。松田姓でつながる関係人口の増加による町経済の発展を期待しているところでもございます。第6次総合計画基本構想の基本的な考え方の一つに「郷土愛」というキーワードを掲げ、松田町を一人でも多くの方々に知っていただくための貴重な場となりますので、この制度についても周知するとともに、この小学校整備事業について共感をいただき、賛同いただけるよう呼びかけてまいります。

最後になりますが、地域や、その取り組みを応援するのが最大の目的でもあり、顔が見える仕組みとして、魅力的なまちづくりを多数の方々と協働・連携協力し、この事業を通じて第6次総合計画基本構想の将来像「いのち育み 未来へつなぐ 進化つづける 故郷」の実現に向け、松田町の未来を担う子供たちの健やかな成長の場、また学びやとなり、さらには地域の防災拠点にもなる松田小学校整備事業をしっかりと推進し、住んでよかった、暮らしてよかったと誇りと愛着を持ち続けられるよう、事業の完遂に向けて取り組んでまいりますので、御理解、御協力のほどよろしくお願い申し上げます。以上です。

2 番 田 代 どうも答弁ありがとうございます。クラウドファンディングに対する説明、いろいろとありましたけれども、それはもっともなことで、すばらしい取り組みだとは思いますが、私、これ何をどうして題材にしたかといいますと、この31年度の予算書、これを見てすごい疑問に思ったからこの一般質問をさせていただきました。

ページで言いますと29ページです。寄附金、一般寄附金1億1,500万、前年対比3,500万のマイナスです。説明欄です。ここが問題になります。ふるさと応援寄附金1億1,500万。前年よりもふるさと納税が減少したので、実績に合わせて行ったということで、この組み立てについては理解してるつもり。具体的には51ページ、ふるさと納税管理経費5,743万7,000円が計上されてます。これについてはふるさと返礼品、またはインターネットの業者に頼む委託料とかを含めて、寄附の半分50%が計上されてます。これについては仕組みどおりわかります。実績に基づいて減となったというのはわかります。

ただ、私が言いたいのは、議会で昨年12月12日、松田小学校等整備事業審査特別委員会報告書、この中で抜粋のどこを読ませてくださいと、「審査の結果、松田町の将来を担う子供たちのために小学校の建てかえは必要であると判断しましたが、次の項目について強く申し入れ、原案のとおり賛成することとしました」と。その3番です。「(3) 松田小学校建設のためのクラウドファンディング型ふるさと納税を推進されたい」というふうに記載されております。これは議決した議員の賛成多数で議決して予算を認めますよと、補正第6号も認めますよというふうにしたのに、何も当初予算には計上されてない。本

来であれば、ふるさと納税応援寄附金 1 億 1,500 万の下に確実性はないので、一般の寄附とか、あとは預金利子もそうなんですけど、最低限の金額を入れて門戸を開くと、入り口をつくると。具体的には、これふるさと応援寄附金の下にクラウドファンディング、松田小学校整備事業寄附金とか入れて、100 万でも 1 万でもいいですよ。そういう姿勢があって、あと入ってきたらそれに合わせて補正をしていく、それが本来の予算の組み立てだと思います。これについて、はっきり言って個人的には議会軽視のような感じします。これについてお答えください。

町 長 これは私のほうから話をさせていただくことにします。まず初めに申し上げるのは、議会軽視ではまずないということの一つ申し上げます。まず、この寄附の制度を大きく分けて 2 つ、ちょっと我々が捉えてるのは、一つはふるさと納税型の、ふるさと納税といいまじょうかね。ふるさと納税に対する返礼品ありの寄附金を集める、攻めるといいまじょうかね、攻めた寄附金と、人の人為でいただく寄附金というふうに分けた場合に、気持ちでいただく分を初めから予算計上しておくというのは、何かちょっと無理があるかなというふうなことがあって、御寄附をいただいたたびにですね、例えば補正を組ませてもらってとか、いつものように皆さん方にお披露目してというふうな考え方があったので、そういうふうにさせてもらっているというのが一つあります。

また、クラウドファンディングについては、この学校をやる前に、当然、議決もいただかなきゃいけないところも当然あるので、学校というよりも、まず女性が輝くという活躍のところの代替に、これから、先ほどお話ししたように今月からですね、約 2 カ月間、それがちょっとうまく調整うければもう 1 カ月というふうな格好の、それはちょっと業者との調整の中にあるんですけども、ガバメント型クラウドファンディングの第 1 回目をですね、試験的に…試験的といいいまじょうかね、行った中で、これから松田町というのがこういうことをやろうとしている、その第 2 弾として小学校についてはそういうふうな打ち出しの仕方もあるのかなというふうなストーリーをですね、ちょっと考えているところでもありますので、議会軽視で、全くこのクラウドファンディングをやら

ないというようなことでは全くないので、その辺は食い違いのないようにお願いしたいと思います。以上です。

2 番 田 代 議会軽視ではないという言葉、ありがとうございます。ただ、私とすれば、やはり何らかの形で少し入れてほしかったな。頭出しはしてほしかったということです。次回の6月にはその言葉が補正計上されるということで理解させていただきます。ちょっと整理したいんですけど…（私語あり）そうです。そうです。そのころには確実に入ると思います。もらったのではなくて、もらうために一生懸命、執行者側もそうなんですけど、我々議会も町民も、やはりみんなに声をかけて持っていくようなことで、もらったのではなく、もらえると、もらうつもりで運動して補正したときには、ぜひきれいな形で計上していただくということで一つ目の言葉は理解させていただきます。

議会側でも、ここで言う言葉で、クラウドファンディング型ふるさと納税ということで、2つの言葉をちょっと一緒にしてるんですよ。これは私なりの整理の仕方なんですけれども、ふるさと納税には一般論として、例えば1万円お支払いしたと。そうしたら返礼品が総務省の指導で3分の1、事務費をかけて半額を今、計上してます。このようにふるさと納税でお金をいただいたときに返礼品、必ずセットになっていると。私はそういうふうにはふるさと納税は理解しておりました。一方でクラウドファンディングは、もう本当に見返りなしの寄附だよというふうなことから、先ほどの質問になったわけです。

これについては、いろいろ考えはあると思うんですけども、そこで担当課長に確認ということでさせていただきますけども、ふるさと納税、松田町は返礼品ありということで、一般寄附と指定寄附を受けていると。これは例えば、今回、匿名で1,000万円町民の方からいただいたと思うんですけども、この方にはどういうふうにしたのかな。要するに、窓口はふるさと納税の中の寄附の指定寄附でされたのかなというふうに私、思ってるんですけど、この場合に返礼品をどうされたのか。その辺について、まず確認させてください。

政策推進課長 今回の匿名の寄附につきましては、一般寄附金ということで、目的がですね、教育のためにということがございましたので、ふるさと納税型の寄附ということではございません。一般的な寄附としていただいたものでございます。

以上です。

2 番 田 代 ありがとうございます。次に今度、一般の寄附ということで、ふるさと納税が始まる前からあった制度の寄附ということで、これについては返礼品も一切ないと。礼状一枚ということで理解させていただきます。

次に、今度ふるさと納税で返礼品あり、これについて返礼品なんですけれども、例えば1万円いただいて3分の1、3,000円返礼品を返して、それ以外の郵送料だ、事務費だ払って半分ということで、多分予算計上してあると思うんですけど、これが1万円じゃなくて10万円の場合、20万円の場合、30万円、100万と上がった場合に、この返礼品というのはどの程度の割合でお返ししているかどうかって、まずその辺、1点確認させてください。

政 策 推 進 課 長 ふるさと納税の寄附者に対しては、その目的をもって納めていただく金額が決まっておりますので、現状で200万、300万円を寄附するからということとは、今、現状はない状況でございます。ふるさと納税型のクラウドファンディングの中には、例えばですけども、品物目的ではなくて、学校教育の整備資金という目的の枠を広げて、そこに返礼品なしでも寄附をしたいというような取り組みもございますので、ここで言うクラウドファンディングという、ガバメントクラウドファンディングにつきましては、必ず返礼品があるということではないということだけは、ちょっと御理解いただければと思います。

町 長 額には関係なくですね、基本的に100万円だろうと1,000万だろうとということはあるんですけど、今、総務省から言われてるのは、返礼品をやる場合は必ず3割に抑えなさいというに、以内に抑えなさいと言われてます。今、現状、松田町が取り扱っていただいているというか、窓口となる業者さんには、大体平均、送料まで含めて、平均大体20%ぐらい払っていますので、ふるさと納税型という形でいった場合には、約、今の形状みたいな感じで5割だけがうちに残るということになります。これがただ、ガバメントクラウドファンディングもいろんなやり方があって、もっと表に出してやりたいとかっていうようなことになると、それはまた別個に事業者がいて、そういった業者が来た場合には合計7割ぐらい、ちょっと持っていかれちゃう。身入れが3割というようなことがありますから、我々も業者さん、どこの業者さんに頼むこ

とが、今回の例えば、学校であったり女性活躍であったりだとかといったときには、やらないと、やったらいいとこに乗せたところで、お金が、寄附が集まるかどうかというのは、非常に懐疑なところがあるかなということで、そのとき、そのときに選択肢を変えていくということになるかと思います。以上です。

2 番 田 代 今の町長のお話は、業者に委託した場合、メジャーな業者に委託した場合、手数料等で経費がかかるというお話は、それは理解しております。

これ、一つの事例として、桜まつりの話をちょっとさせていただきたいんですけれども、平成16年に、まだ植える用地があったときに、東京都内の婦人のグループ3名から、ぜひ早咲き桜を寄附してほしいということで、たまたま私、その場に遭遇して案内をして、某場所に植栽まで手伝わせていただきました。その後も、やはり御存じのようにTBS、NHKのお天気カメラで出たときに、お客さんが当然来るんですけれども、見えられますけれども、そのときにね、平塚かね、藤沢在住の方でした。お父様が松田出身、松田生まれ、それで、今そちらに住んでるんですけど、きょうの桜を見て非常に感激したと。ぜひ、私は、もう親父が余り話せないで、息子なんだけれども、親父の意向としては桜の木を寄附してほしいというふうな電話をいただいたんですけれども、もうそのときには、大体もう植栽するところがもういっぱいになって、丁重にお断りしたということで。

なぜそういうお話をしたかという、私の文章の中で「隠れ松田ファン」という表現をさせていただいております。1つは資金繰りが厳しいからクラウドファンディング、またはふるさと納税を利用しながら寄附を仰ごうといった場合に、分類の仕方として松田に人的なつながりがある。先ほどお話ししたように松田出身の方、そういう人が一つのターゲットになるのかなと。それと一方で、人的なつながりがない方、そういった人に全国的にアピールする。先ほどの冒頭のお話のように、業者を使って、確かにそういうコストをかけるのも一手段だと思います。でも、一方で手づくりで自分たちで考えながら宣伝していく。まして、あのNHKさんとTBSさんにはお天気カメラがあって、すごいパイプがあるわけです。そういった中で一つのイベントを通して映像にしてい

ただいて、全国に投げかけてくと。町長、すごい今、積極的に取り組んでるなというので、最近の話題の中で、NHKの朝、7時45分ぐらいからやる関東近県のあれとかで私見た記憶があるんですけど、一つは寄の有害獣の関係で、あえて丹沢ということで、その対策について投げ込んだのが一つと、あとはサクラマスの関係で、特産品になったんだけど、何かいい方法、料理ないかということで、飲食店の方と一緒に著名な料理家を招いて文化センターでいろんな試行された記録があったと思います。私、そういうのでいいと思うんですよね。何かイベントに引っかけて、それで松田を売っていく。その中で寄附を募っていくと。そういった考え方について、いかがでしょうか。

町長 まず、一つちょっと勘違いされちゃうといけないので、先ほどちょっとガバメントクラウドファンディングもちょっとやりますよという話をしましたが、ちょっと有名なそういったところとやってもですね、ある程度、実績に応じてしかお金を払わないので、今、一緒にやろうとしているところに関しては、あえてお金を払ってやってもらうということでは、まず、ないということだけですね。ほかのふるさと納税もそうです。初めて寄附してもらったお金から返すということになりますから、そこがまず1つです。それはそれでそうですよね。

今言われてるように、「おはよう日本」さんにね、撮ってもらってやっていただきましたけども、そういったことは、当然やるようにといいたましょかね、そういった努力は当然していかないと、やっぱり去年のような、ああいう全国的な寄附のやつでほとんど持っていかれちゃって、何か隠れちゃったようなことにならないようにしなきゃいけないので、やはり毎年といいたましょかね、常にやっぱりそういう意識を持って取り組むということには変わりがないということでお答えしておきます。

2 番 田 代 今の話については、どちらかというと人的なつながりがない、外への呼びかけのつもりでちょっとお話ししました。

一方で、人的なつながりがある人、要するに私どもの同級生だとか先輩だとか後輩が、松田で生まれたんだけど都会に出てる。そういった中で非常に成功して富裕層になってるという方もいて、人によってはすごい愛着も持ってる方



も多いと思います。ただ、そういった方の住所を調べて役場から投げるとするのは、非常に個人情報で難しい問題があります。そこで「広報まつだ」、こういったものを使って、松田出身の方で、また松田町民でも結構です。松田町民に対してもそうですし、または松田出身の方に、ぜひこういうことでやりたい。松田小学校いいものを整備したいというふうなことで、寄附について売り込んでいただく。行政側だけじゃなくて、やっぱり共鳴する団体だとか、人もいろいろ出てくると思うんですよ。そういった中で一丸となって、少しでもお金を集めていい学校をつくりたいというふうなことで、「広報まつだ」に呼びかけていただくとか、またはインターネットで町民の方に呼びかけていただいて、また松田出身の方に呼びかけると。その辺の手法についてはいかがでしょうか。

政策推進課長 広報については、非常に町内の方について、大切なものと認識してございますので、積極的な発信の仕方をし、またですね、わかりやすい形で目的のこの事業ですね、この事業の目的に共感を持っていただけるような広報活動に努めていきたい。またですね、今回、町の普通の施策の中でですね、ふるさと同窓会というのをやってございます。この中では、ふるさと納税型の寄附というのを紹介をしてございます。今度、そこにですね、一つの目的、小学校整備事業に向けた町の取り組みをあわせて掲載をし、参加された方に周知をしていきたいというふうに考えておりますので、よろしくをお願いします。

2 番 田 代 よろしくをお願いします。いろんな手法あると思うので、それは皆さんの知恵を出せばね、結構いいものができると思いますので、お願いしたいと思います。

それで、その中で先ほどお話しした、ふるさと納税の返礼品ではなくて、単なる寄附でいいよと。返礼品はいらないよと。ただし、人によっては寄附者名簿一覧とか、よく何か集会施設でもいろんなところを見させていただくと、寄附された方の名前がだあっと出てるような感じがあるんですよ。そういうふうな形で、返礼品を求められなかった人で、寄附だけでいいよと。匿名の方は除きますけども、そういった方に、例えば屋内であれば木製のものに名前が入るような私はイメージでいるんですけど、そういうのを見たこともあるんですけど。屋外で、お金がすごい入っちゃったということで、じゃあ屋外に石碑でいこう

ぜとって名前も入れるようなこともね、可能だと思うんですけどね、やはり寄附者に対しての気持ちを、町としてお示しして、それでも永遠に校舎がある限り残す、何かそういった手法もあるのかなと思うんですけど、その辺についてはいかがでしょうか。

政策推進課長 そのとおりだと思います。ですが、今、個人情報がまずあるということが一つとすね、寄附者のほうの確認をした上で、今後、施行される教育課と相談をし、一番いい方法をとっていきたいというふうに考えております。以上です。

2 番 田 代 今、私も説明したとおり匿名の方は除きますということで、要するに返礼品はないんだけど、こういうことでお名前を残すよと。その手法がある程度しっかり明確に確立してれば、寄附をされる方もまた出るのではないかということです。町長、この辺についてはぜひ御検討をお願いしたいと思います。

寄附についてはこれで終わりますけれども、最後に1点、先ほど、委員会報告の中で1点目に委員会報告をちょっとお読みしたんですけど、その1点目です。松田小学校の建設委員会の設置をされたいと。これについては町内外の学識経験者、それなりの経験者の方や、また学校に対していろいろ関係のある方を交えた中で、よいものをつくるために、ぜひそういった委員会を設置して、それで進行管理です。いい面での進行管理をして、すばらしいものができるよと。ということで、議会としてはこの言葉を一文を入れさせていただいたんですけど、このことについて、町長のお考えについて一つお伺いしたいと思います。よろしくをお願いします。

教育のほうがいいですか。いや、やっぱり…まずは、教育だそうですね。

教育課長 御提案ありがとうございます。組織と進行管理につきましては、まだまだ協議をしております。今後、町長ともよく相談しながら、よりよいものをつくりたいと思っておりますので、十分に協議をした上で皆様にお伝えしようと思っております。

町 長 ありがとうございます。今現在、事業者を募集をさせていただいて、第1次の受け付けを、一回もう終了したということになります。これから、細かい書類等を4月いっぱいでしょうかね、出していただいて、5月には業者をある程度選定をさせていただいて、6月の議会には皆さん方にお示しできれば

なというふうなことで今進めておりますので、そこで事業者がしっかりと決まった段階から、そういうふうな建設に向かった委員会ということで、さまざまなアドバイスをいただけるような人たちを、その手前までに選定をさせていただいてですね、やっていくような方向に多分なろうかと思っておりますので、附帯事項をいただいたことについては、きちっと約束は守らせていただこうというふうな考えております。以上です。

2 番 田 代 遠藤課長、附帯項目でございますから、私の要望ではございませんので、議決した内容ですので、よろしくをお願いします。

町長から今お話のあったようにね、本当にうまく事業が始まって、一気にわあっと動いていくんですけれども、そのときに一つ一つ進捗状況を確認しながら、とにかく松田町始まって以来の大きい事業ですので、ぜひすばらしいものを整備していただきたいと思っております。

先ほど、寄附についてはおしまいというふうに言ってしまったんですが、最後に一言。町長、答えにくいと思うんですけど、寄附額、町長の腹づもりではお幾らぐらい想定されているのか、これ学校に関してです。非常にお答えにくいと思っておりますけれども、お答えできるようでしたらよろしくをお願いします。

町 長 人の善意について目標を述べるというのは、非常に恐縮なところなので、またしかるべきときにですね、というか、実際のところは、もう全体の工事費等々もありますから、いただける善意はですね、全ていただきたい。それは少額であってもという気持ちで受けたいというふうな思ってます。だから目標金額は定めることなくですね、広く我々も積極的にやっていきたいというふうな考えてます。以上です。

2 番 田 代 物事いろいろ考え方あるんですけど、目標を決めて、それに向かって努力するというパターンと、もう一つの考えは、一生懸命努力した結果、目標が思ったよりすばらしい数字になるというふうな形があると思っております。そういった中で、町長は立場上、後者の考えを選んだと思うんですけども、それはそれで結構だと思います。そのためには、町長、先ほど出たようにいろんな形で寄附の方法があると思います。私たち議員も、なるべく町内の方に、松田出身の方に声をかけたりとか、団体の人には声をかけたりとか、皆でこれ盛り上げて、

行政と町民が一体となって、少しでも寄附をいただけるということを強く要望いたしまして、質問を終わります。以上です。

議

長 以上で受付番号第6号、田代実君の一般質問を終わります。

以上で本日本日予定しました日程の全てが終了しましたので、本日の会議はこれにて散会いたします。なお、明日午前9時より本会議を開きますので、定刻までに御参集くださるようお願いいたします。午後1時より議会全員協議会を開催します。本日はまことに御苦労さまでございました。 (16時29分)